



慶應義塾大学ビジネス・スクール

不確実性下の一般均衡分析： 効率的配分の実現可能性

要旨

本稿は 1990 年代までの標準的なミクロ経済学の内容をまとめた数章からなる冊子の一部である。ここでは、純粹交換経済に不確実性を導入し、期待効用最大化を行動基準とする消費者からなる市場の一般均衡分析を取り扱う。鍵となる概念は条件付き財の取引を通じた経済全体でのリスク分担である。それによって、たとえ不確実性が存在したとしても、生じた状態をすべての取引者が共通に認識することができ、各状態について市場が完備ならば、効率的配分は市場均衡によって実現可能であることを確認する。さらに、分析の枠組みを資産市場に応用し、資産の数が状態の数よりも少ない不完備市場においては効率的配分の実現が保証されないことに言及する。

本稿は、慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士後期課程における「経営科学特論」の講義資料として、渡邊直樹（慶應義塾大学大学院経営管理研究科）によって執筆された。本稿は KBS の出版物であるため、KBS の許可を得ずに本稿を複製、転送、配布することは禁じられている。問い合わせ先：223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学ビジネススクール ケース室, Phone: 045-564-2444, E-Mail: case@kbs.keio.ac.jp Website: <http://www.kbs.keio.ac.jp> Copyright ©渡邊直樹（2018年9月初版作成）